

## 審美領域におけるインプラント補綴治療

東葛北支部 枝川 智之

昨今の歯科医療は歯科技工士の関与する範囲が以前より広く、患者さんの審美的要求はセラミックスのみならず顔貌やリップまた歯肉を含めたトータル的な要求になっている。特にインプラント治療においては補綴物と歯肉との調和を考え製作しなければならないなど、補綴物製作に対し多岐に渡る考慮が必要である。

このような点から、歯科技工士は歯科医師と共に同じ意識と知識を持ち、コミュニケーションをとりながら補綴物製作に取り組む必要性を強く感じる。

また、補綴物製作の分野においてデジタル化が進んでいく中、CAD/CAM を活用する症例も格段に増えている。

今回は CAD/CAM を用いた臨床例や審美領域におけるインプラント補綴治療の要点をお話しさせていただきます。

## 新素材のレジン床システム ECLIPSE の有用性

東葛北支部 松平 浩

今回は PMMA 材の欠点を大幅に改善するものであり有用性に優れている、DENTSPLY 社の開発した Visible light cured (ウレタン系光重合型レジン) の有用性についてご紹介いたします。

1930年代に作られた PMMA (メタクリレート系レジン) 材が80年以上に渡り床用レジンとして活用されている。長期に応用されているこの材料は優れたものであることは間違いないが、その欠点も数多く語られてきている。

ECLIPSE は第一にモノマーフリーであること。これはモノマーが原因と考えられる皮膚疾患の防止に大きく貢献するものである。患者さんと術者にとって大きなプラス要因であるため東京医科歯科大学では顎補綴に応用を始めている。第二に収縮率は PMMA の半分から 1/3 程度であること。このことから適合性の高いことがあげられる。第三に埋没作業が不要で試験後に光重合するだけで完成することから制作工程の大幅な時間短縮が可能である。

以上大きな特徴として3点を中心に ECLIPSE の有用性をお話しさせていただきます。

## 次世代型審美義歯 マグロックとJ・ロック・デンチャー

安房支部 池田 幸雄

失われた歯の補綴処置には、ブリッジ、インプラント、義歯と選択肢がある。大きな流れとなっているミニマルインターベンション（MI）を考慮し義歯を選択する事も有効かと思われる。歯を削りたくない、外科的処置は嫌だ、入れ歯で金属が見えるのはもっと嫌だ。このような患者さんの要望に応えられ、審美性を追求しつつも義歯の着脱時に鈎歯に全く力がかからない、鈎歯に優しい義歯として考案した、マグロックとJ・ロック、二種類の開閉式部分床義歯を紹介させていただきます。

## 睡眠時無呼吸症候群に対応する口腔内装置の実際 ～装置の選択とその製作ノウハウ～

松戸支部 田村 和生

睡眠時無呼吸症候群に対応する口腔内装置(OA)には様々なものがあり、特徴が分かれる。当技工所では上下顎を固定するものに一番多くの依頼がある。審査診断による重症度に基づく装置の提案、患者さんのQOLや経済状況に配慮した装置の検討、上下顎が開き固定式より違和感が少ない装置の製作など、先生と共に情報を共有し治療をサポートしてきた。そこで当技工所が提案する個々の患者さんの状況に配慮した装置と、各種口腔内装置の製作方法を紹介させていただきます。

## 半調節性咬合器を用いた、リングライズドオクルージョンの実際

松戸支部 福山 晃一

フルデンチャー製作時のリングライズドオクルージョンは、顎堤への負担が少なく、高い咀嚼能力があり、義歯の安定性にもすぐれているという特徴があります。半調節性咬合器を用いることにより、口腔内での咬合状態を咬合器上で正確に再現することができます。その時どのようなことに注意して操作を進めていけば良いのか、ポイントを紹介させていただきます。